

JAPANESE: LEVEL I

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『五十音』 北原白秋 きたはら はくしゅう

あめんぼ あかいな あいうえお

かきのき くりのき かきくけこ

ささげに すをかけ さしすせそ

たちまじょ らっぱで たちつてと

なめくじ のろのろ なにぬねの

はとぼっぼ ほろほろ はひふへほ

まいまい ねじまき まみむめも

やきぐり ゆでぐり やいゆえよ

らいちょうは さむかろ らりるれろ

わいわい わっしょい わいうえお

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection I

『ぬかるみ』 かねこ みすず

このうらまちの
ぬかるみに、
あお 青 そら お空が
ありました。

とおく、とおく、
うつくしく、
すんだお そら 空が
ありました。

このうらまちの
ぬかるみは、
ふか 深 そら お空で
ありました。

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection II

『き』 谷川 俊太郎 たにかわ しゅんたろう

なんのき このき

このきは ひのき

りんきに せんき

きでやむ あにき

なんのき そのき

そのきは みずき

たんきは そんき

あしたは てんき

なんのき あのき

あのきは たぬき

ばけそこなって

あおいきといき

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection III

『ちょうちょう』 山村 暮鳥 やまむら ぼちょう

あおぞら たかく

たかく

どこまでも どこまでも

まいあがっていった ちょうちょう

あの ふたつの ちょうちょう

あれっきり

もうかえっては こなかったか

JAPANESE: LEVEL II

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『不思議』 金子みすず

わたしは不思議でたまらない、

黒い雲からふる雨が、

銀にひかっていることが。

わたしは不思議でたまらない、

青いくわの葉たべている、

かいこが白くなることが。

わたしは不思議でたまらない、

たれもいじらぬ夕顔が、

ひとりでぱらりと開くのが。

わたしは不思議でたまらない、

たれにきいてもわらってて、

あたりまえだ、ということが。

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection I

『うみの こもりうた』 くどうなおこ 工藤直子

ちきゅうが くるりと まわって
よるになったら
うみも ゆらりと ゆれて よるになり
たくさんの いのちを だいて
こもりうたを うたう
たくさんの いのち うれしく
ゆめをみる

ちきゅうが くるりと まわって
あさになったら
うみも ゆらりと ゆれて あさになり
たくさんの いのちを だいて
めざめのうたを うたう
たくさんの いのち うれしく
わらいだす

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection II

『さくらの はなびら』 まどみちお

えだを はなれて

ひとひら

さくらの はなびらが

じめんに たどりついた

いま おわったのだ

そして はじまったのだ

ひとつの ことが

さくらに とって

いや ちきゅうに とって

うちゅうに とって

あたりまえすぎる

ひとつの ことが

かけがえのない

ひとつの ことが

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection III

『^{ゆうひ}夕日 がせなかをおしてくる』

さかた ひろお

^{ゆうひ}夕日 がせなかを おしてくる
まっかなうでで おしてくる
あるくぼくらの うしろから
でっかい^{こえ}声で よびかける
さよなら さよなら
さよなら きみたち
ばんごはんが まってるぞ
あしたの^{あさ}朝 ねすごすな

^{ゆうひ}夕日 がせなかを おしてくる
そんなにおすな あわてるな
ぐるりふりむき たいように
ぼくらもまけず どなるんだ
さよなら さよなら
さよなら たいよう
ばんごはんが まってるぞ
あしたの^{あさ}朝 ねすごすな

JAPANESE: LEVEL III

NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory Selection

『山頂^{さんちよう}から』

おの じゅうさぶろう
小野 十三郎

山にのぼると

うみ てん
海は天まであがってくる。

ほう
下の方で しずかに

かっこうがないている。

かぜ たか
風にふかれて高いところにたつと

だれでもしぜんに せかい ひろ かんが
だれでもしぜんに世界の広さを考える。

ぼくは手を口にあてて

なにか下の方に む かって さけ
なにか下の方に 向かって 叫びたくなる。

ごがつ
五月の山は

あか
きらぎらと 明るくまぶしい。

さんちよう
きみは 山頂 よりも上に

あお こ
青い大きな 弧 をえがく

すいへいせん
水平線を見たことがあるか。

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection I

しか 『鹿』 むらの しろ
村野 四郎

しか もり
鹿は 森のはずれの

ゆうひ
夕日の中に じっと立っていた

かれ し
彼は知っていた

ひたい
小さい額がねらわれているのを

かれ
けれども 彼に

でき
どうすることが出来ただろう

た
彼は すんなり立って

むら ほう
村の方を見ていた

い じかん おうごん ひか
生きる時間が黄金のように光る

か
彼の すみ家である

よる はいけい
大きい森の夜を 背景にして

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection II

『^{あき}秋の^よ夜の^{かいわ}会話』

^{くさのしんべい}草野心平

さむいね。

ああさむいね。

^{むし}虫がないてるね。

ああ虫がないてるね。

もうすぐ^{つち}土の^{なか}中だね。

土の中はいやだね。

^や瘦せたね。

^{きみ}君もずいぶん^や瘦せたね。

どこがこんなに^{せつ}切ないんだろうね。

^{はら}腹だろうかね。

^{はら}腹とったら^し死ぬだろうね。

死にたくはないね。

さむいね。

ああ虫がないてるね。

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection III

『われは草^{くさ}なり』 高^{たか}見^み 順^{じゆん}

われは草^{くさ}なり 伸^のびんとす
伸^のびられるとき 伸^のびんとす
伸^ひびられぬ日は 伸^ひびぬなり
伸^ひびられる日は 伸^ひびるなり

われは草なり 緑^{みどり}なり

全^{ぜん}身^{しん}すべて 緑なり

毎^{まい}年^{とし}かわらず 緑なり

緑のおのれに あきぬなり

われは草なり 緑^{みどり}なり

緑の深^{ふか}さを願^{ねが}うなり

ああ 生^いきる日の 美^{うつく}しき

ああ 生^いきる日の 楽^{たの}しさよ

われは草なり 生^いきんとす

草のいのちを 生^いきんとす

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE

NOTE: Students are required to recite from memory two poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

Mandatory Selection

『雨にも負^まけず』 宮沢^{みやざわ} 賢治^{けんじ}

雨にも負^まけず
風^{かぜ}にも負^まけず
雪にも夏の暑^{あつ}さにも負^まけぬ
丈夫^{じょうぶ}なからだをもち
慾^{よく}はなく
決して怒^{いか}らず
いつも静^{しず}かに笑^{わら}っている
一日^{いちにち}に玄米^{げんまい}四合^{よんごう}と
味噌^{みそ}と少しの野菜^{やさい}を食べ
あらゆることを
自分を勘定^{かんじょう}に入れずに
よく見聞^{みき}きし分かり
そして忘^{わす}れず
野原^のの松^{まつ}の林^のの陰^{かげ}の
小さな萱^{かや}ぶきの小屋^{こや}にいて
東^{ひょうき}に病^{びょうき}気の子^{こども}供あれば
行^{かんびょう}って看^{かん}病^{びょう}してやり
西^{つか}に疲^{つか}れた母^{はは}あれば
行^{いね}ってその稲^{いね}の束^{たば}を^お負^おい
南^しに死^しに^しような人^{ひと}あれば
行^いってこわがらなくてもいいといい

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Mandatory Selection, cont'd.)

北に^{けんか}喧嘩や^{そしょう}訴訟があれば
つまらないからやめろといい
^{ひで}日照りの時は^{なみだ}涙を^{なが}流し
寒さの夏はおろおろ^{ある}歩き
みんなにデクノボーと^よ呼ばれ
^ほ褒められもせず
^く苦にもされず
そういうものに
わたしは
なりたい

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection I

つきよ はまべ なかはらちゅうや
『月夜の浜辺』 中原中也

月夜の晩に、ボタンが一つ

なみうちぎわ
波打際に、落ちていた。

それを拾って、やくだ
役立てようと

僕は思ったわけでもないが

なぜだかそれをす
捨てるにしの
忍びず

僕はそれを、たもと
袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ

なみうちぎわ
波打際に、落ちていた。

それを拾って、役立てようと

僕は思ったわけでもないが

月に向つてそれはほう
抛れず

なみ
浪に向つてそれはほう
抛れず

僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾ったボタンは

指先にしみ、心に沁みた。

月夜の晩に、拾ったボタンは

どうしてそれが、捨てられようか？

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection II

『生きる』

たにがわしゅんたろう
谷川俊太郎

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

こもれ^も日^びがまぶしいということ

ふっと^あるメロディを思い出すということ

くしゃみをすること

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるということ

自由ということ

生きているということ

いま生きているということ

いま遠くで犬が^ほ吠えるということ

いま地球が^{まわ}廻っているということ

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection II, cont'd)

いまどこかで産声^{うぶごゑ}があがるということ

いまどこかで兵士^{へいし}が傷^{きず}つくということ

いまぶらんこがゆれているということ

いまいまがすぎてゆくこと

生きているということ

いま生きてるとということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection III

『自分の^{かんじゆせい}感受性^{くらい}』 いばらぎ のり子

ばさばさに^{かわ}乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを^{おこた}怠っておいて

^{きむずか}気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを^{うしな}失ったのはどちらなのか

^{いら}苛立つのを
^{きんしん}近親のせいにはするな
なにもかも下手だったのはわたくし

^{しょしん}初心消えかかるのを
^く暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな^{こころざ}志しにすぎなかった

^{だめ}駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る^{そんげん}尊厳の^{ほうき}放棄

(Continued on next page)

自分の^{かんじゆせい}感受性くらい

自分で^{まも}守れ

ばかものよ